

(2) 死亡

ア 死亡数及び死亡率

死亡数は67,726人で、前年の65,770人より1,956人増加した。

死亡率は人口千人に対し9.4で、前年の9.2を0.2ポイント上回った。全国（11.0）と比較すると1.6ポイント下回っている。

死亡率の年次推移をみると、昭和35年7.9、昭和45年5.7、昭和55年4.5と低下し、以降4.5前後で推移していたが、昭和61年以降上昇傾向に転じた。（表－7、図－5）

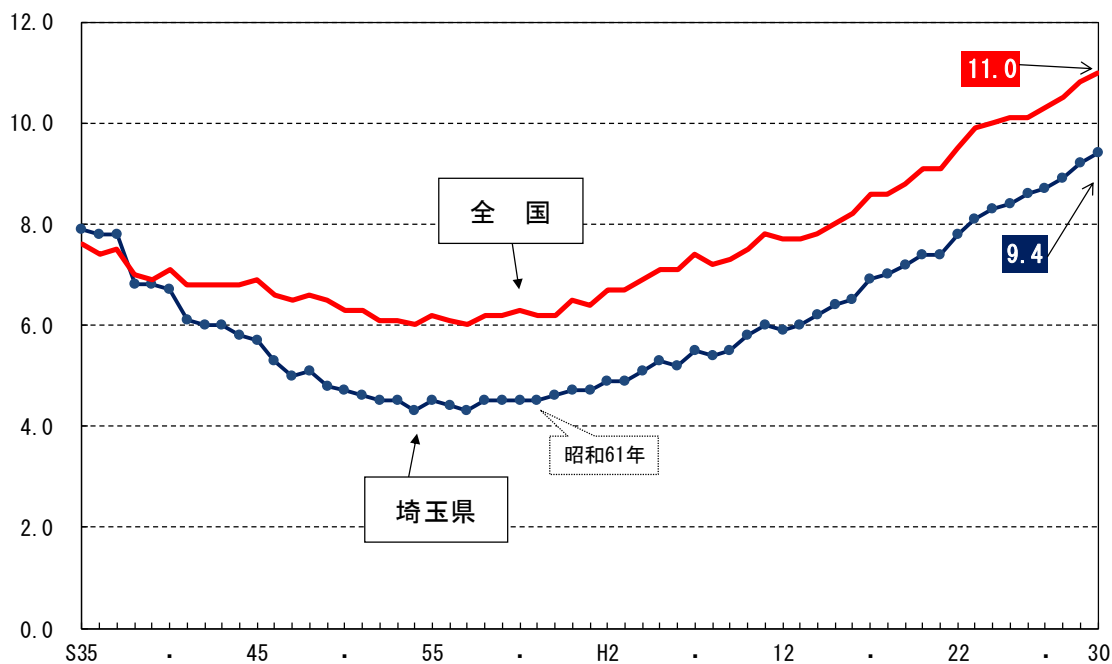
表－7 死亡数及び死亡率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7
数	埼玉県	19 089	20 117	21 836	22 688	24 129	26 417	31 222	36 799
	全国	706 599	700 438	712 962	702 275	722 801	752 283	820 305	922 139
率	埼玉県	7.9	6.7	5.7	4.7	4.5	4.5	4.9	5.5
	全国	7.6	7.1	6.9	6.3	6.2	6.3	6.7	7.4
		12	17	22	26	27	28	29	30
数	埼玉県	40 486	48 095	55 487	61 269	62 566	63 470	65 770	67 726
	全国	961 653	1 083 796	1 197 014	1 273 025	1 290 510	1 308 158	1 340 567	1 362 470
率	埼玉県	5.9	6.9	7.8	8.6	8.7	8.9	9.2	9.4
	全国	7.7	8.6	9.5	10.1	10.3	10.5	10.8	11.0

注：率は人口千対である。

図－5 死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

死亡率（人口千対）



イ 都道府県別にみた死亡率

都道府県別にみると、本県の死亡率は昭和 63 年以降平成 13 年まで低率順で第 1 位、平成 14、15 年は沖縄県に次いで第 2 位、平成 16 年以降は沖縄県及び神奈川県に次いで第 3 位、平成 27 年～29 年は第 4 位、平成 30 年は第 5 位となっている。(表－8)

表－8 都道府県別にみた死亡率

	S60			H2			7			12			17		
	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位
高 率 順	全 国	6.3		全 国	6.7		全 国	7.4		全 国	7.7		全 国	8.6	
	高 知	8.7	1	高 知	9.3	1	島 根	10.0	1	高 知	10.2	1	島 根	11.6	1
	鹿 児 島	8.5	2	島 根	9.1	2	高 知	9.9	2	島 根	10.2	2	高 知	11.5	2
	島 根	8.3	3	鹿 児 島	8.8	3	鹿 児 島	9.6	3	秋 田	10.1	3	秋 田	11.4	3
	和 歌 山	8.2	4	徳 島	8.7	4	鳥 取	9.4	4	山 口	10.0	4	山 口	11.2	4
	徳 島	8.0	5	和 歌 山	8.7	5	山 口	9.4	5	鳥 取	9.7	5	山 形	11.0	5
	山 形	7.8	6	鳥 取	8.5	6	和 歌 山	9.4	6	徳 島	9.7	6	和 歌 山	10.9	6
	鳥 取	7.8	7	山 口	8.5	7	徳 島	9.2	7	和 歌 山	9.6	7	鹿 児 島	10.9	7
	大 分	7.8	8	山 形	8.3	8	秋 田	9.0	8	山 形	9.6	8	徳 島	10.7	8
	山 口	7.7	9	大 分	8.3	9	佐 賀	9.0	9	鹿 児 島	9.5	9	岩 手	10.6	9
佐 賀	7.6	10	佐 賀	8.3	10	愛 媛	9.0	10	大 分	9.3	10	愛 媛	10.6	10	
低 率 順	沖 縄	4.5	1	埼 玉	4.9	1	埼 玉	5.5	1	埼 玉	5.9	1	沖 縄	6.7	1
	埼 玉	4.5	2	神 奈 川	5.0	2	神 奈 川	5.7	2	神 奈 川	6.0	2	神 奈 川	6.8	2
	神 奈 川	4.6	3	千 葉	5.2	3	沖 縄	5.8	3	沖 縄	6.1	3	埼 玉	6.9	3
	千 葉	4.8	4	沖 縄	5.3	4	千 葉	6.0	4	千 葉	6.3	4	千 葉	7.4	4
	愛 知	5.1	5	愛 知	5.7	5	愛 知	6.3	5	愛 知	6.6	5	愛 知	7.4	5
高 率 順	全 国	9.5		全 国	10.1		全 国	10.3		全 国	10.8		全 国	11.0	
	秋 田	13.2	1	秋 田	14.2	1	秋 田	14.5	1	秋 田	15.5	1	秋 田	15.8	1
	高 知	12.8	2	高 知	13.8	2	島 根	13.9	2	島 根	14.3	2	高 知	14.6	2
	島 根	12.8	3	島 根	13.7	3	高 知	13.8	3	高 知	14.3	3	島 根	14.5	3
	山 口	12.3	4	山 形	13.2	4	山 形	13.4	4	山 形	14.0	4	青 森	14.3	4
	山 形	12.1	5	山 口	13.1	5	青 森	13.1	5	徳 島	13.8	5	山 形	14.1	5
	和 歌 山	12.1	6	和 歌 山	13.1	6	徳 島	13.1	6	岩 手	13.8	6	岩 手	14.1	6
	鹿 児 島	11.9	7	徳 島	13.1	7	和 歌 山	13.1	7	青 森	13.8	7	和 歌 山	14.1	7
	徳 島	11.9	8	青 森	12.8	8	山 口	13.1	8	山 口	13.7	8	山 口	13.9	8
	岩 手	11.9	9	鳥 取	12.7	9	鹿 児 島	13.0	9	和 歌 山	13.6	9	鹿 児 島	13.8	9
鳥 取	11.9	10	鹿 児 島	12.6	10	岩 手	12.9	10	鹿 児 島	13.5	10	徳 島	13.7	10	
低 率 順	沖 縄	7.3	1	沖 縄	7.8	1	沖 縄	8.0	1	沖 縄	8.4	1	沖 縄	8.5	1
	神 奈 川	7.6	2	神 奈 川	8.1	2	神 奈 川	8.4	2	東 京	8.8	2	東 京	8.9	2
	埼 玉	7.8	3	埼 玉	8.4	3	東 京	8.5	3	神 奈 川	8.9	3	神 奈 川	9.2	3
	愛 知	8.1	4	東 京	8.5	4	埼 玉	8.7	4	埼 玉	9.2	4	愛 知	9.4	4
	東 京	8.1	5	愛 知	8.6	5	愛 知	8.8	5	愛 知	9.2	5	埼 玉	9.4	5

注 1：率は人口千対である。

注 2：順位の数出には、小数点第 2 位以下を考慮している。

ウ 死因

(ア) 死因順位

平成30年の死亡数を死因順位別にみると、第1位は悪性新生物 19,475人（死亡総数の28.8%）、第2位は心疾患 10,805人（16.0%）、第3位は肺炎 5,481人（8.1%）、第4位は脳血管疾患 4,910人（7.2%）、第5位は老衰 4,322人（6.4%）となっている。

死亡率（人口10万対）を前年と比較すると、老衰（60.2）が6.1ポイント、悪性新生物（271.4）が4.0ポイント、心疾患（150.6）が3.7ポイント、不慮の事故（23.1）が2.7ポイント、誤嚥性肺炎（21.4）が2.2ポイント上昇した。

一方、脳血管疾患（68.4）が1.2ポイント低下した。（表－9）

表－9 主な死因別死亡数及び死亡率（対前年比較）

死 因	平成30年			平成29年			平成29年との比較		
	数	率(人口 10万対)	死亡総数に 占める割合	数	率(人口 10万対)	死亡総数に 占める割合	数	率(人口 10万対)	死亡総数に 占める割合
総 数	67 726	943.9	100.0	<u>65 770</u>	916.7	100.0	1 956	27.2	
悪 性 新 生 物	19 475	271.4	28.8	19 181	267.4	29.2	294	4.0	△ 0.4
心 疾 患	10 805	150.6	16.0	10 542	146.9	16.0	263	3.7	-
肺 炎	5 481	76.4	8.1	5 452	76.0	8.3	29	0.4	△ 0.2
脳 血 管 疾 患	4 910	68.4	7.2	4 996	69.6	7.6	△ 86	△ 1.2	△ 0.4
老 衰	4 322	60.2	6.4	3 880	54.1	5.9	442	6.1	0.5
不 慮 の 事 故	1 661	23.1	2.5	1 462	20.4	2.2	199	2.7	0.3
誤 嚥 性 肺 炎	1 537	21.4	2.3	1 378	19.2	2.1	159	2.2	0.2
腎 不 全	1 211	16.9	1.8	1 203	16.8	1.8	8	0.1	-
自 殺	1 176	16.4	1.7	1 175	16.4	1.8	1	-	△ 0.1
間 質 性 肺 疾 患	1 058	14.7	1.6	1 026	14.3	1.6	32	0.4	-
小 計	51 636	719.7	76.2	50 295	701.1	76.5	1 341	18.6	△ 0.3
そ の 他	16 090	224.3	23.8	15 475	215.7	23.5	615	8.6	0.3

注：厚生労働省は過去数値の再集計結果について、本表作成時点で死亡数の総数の修正は公表（下線部分）し、死因別の数値の修正は未公表（公表時期未定）のため、総数と主な死因別の数値の合計が一致しない。

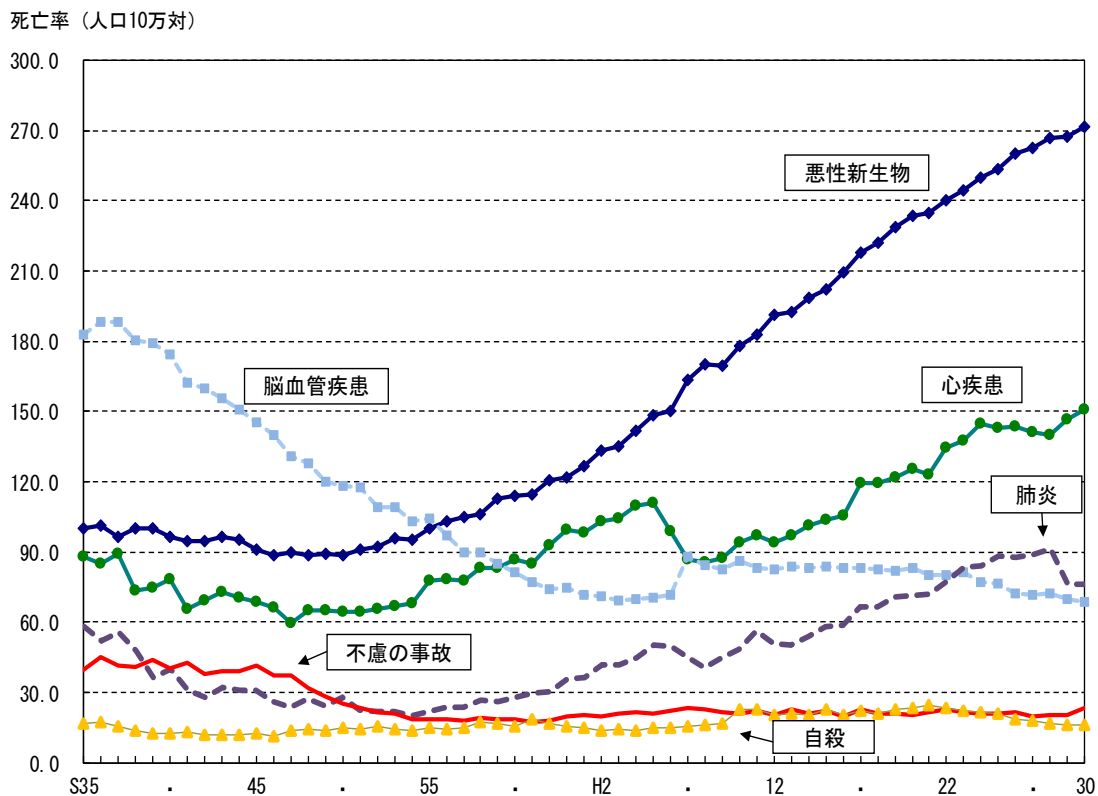
死因別に死亡率（人口10万対）の年次推移をみると、悪性新生物は昭和55年以降概ね上昇が続き、平成15年には200.0を超え、平成30年は271.4となった。また、死因順位は、昭和56年以降第1位となり、平成30年の死亡総数に占める割合は28.8%となっている。

心疾患は、昭和60年に脳血管疾患にかわり第2位となり、その後も緩やかな上昇を続けており、平成14年から100.0を越えている。平成30年の死亡総数に占める割合は16.0%となっている。

脳血管疾患は昭和36年をピークに低下し、昭和56年には悪性新生物にかわり第2位に、さらに昭和60年には心疾患にかわり第3位となり、その後も低下傾向にある。平成23年には、肺炎にかわり第4位となり、平成30年の死亡総数に占める割合は7.2%となっている。（表－9、図－6）

なお、平成6、7年の心疾患及び平成7年の脳血管疾患の著しい変動は、死亡傾向が急激に変化したものではなく、原死因分類（ICD-10）及び死亡診断書の改正によるものと考えられる（図－6の「注」を参照）。

図－6 主要死因別死亡率の年次推移（埼玉県）



注：死因分類(ICD-10)及び死亡診断書の改正による影響

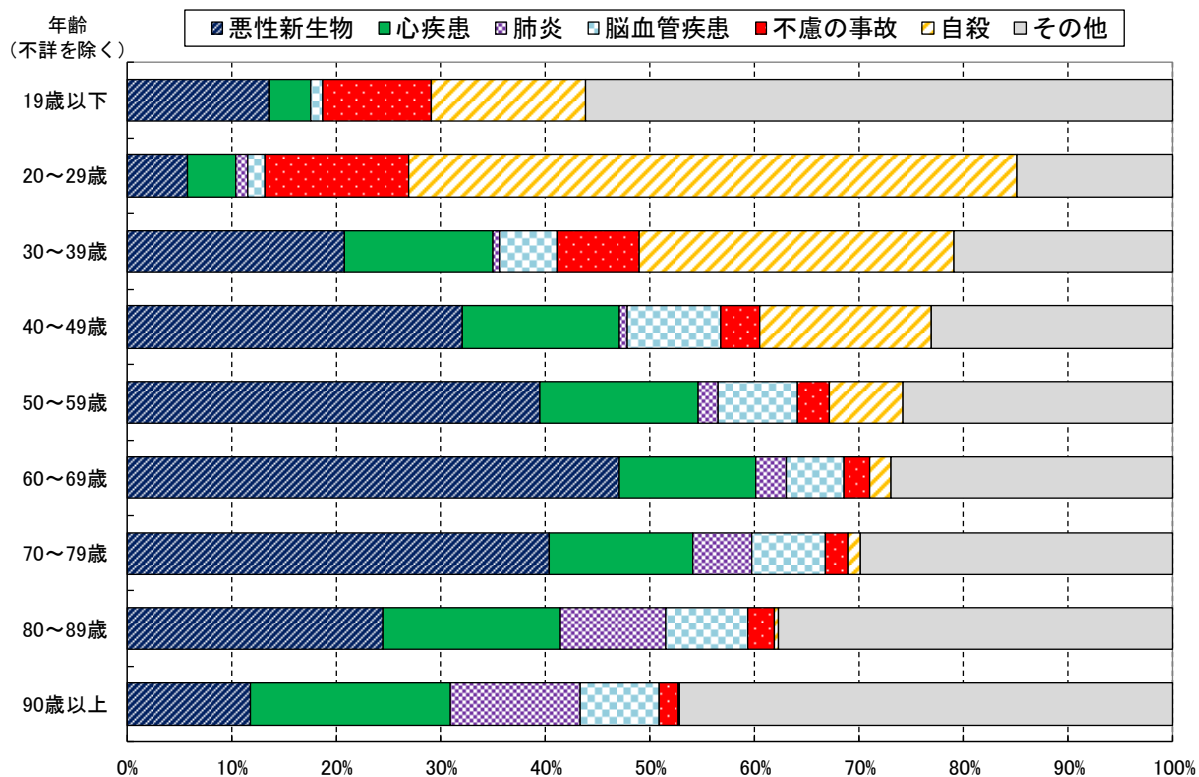
心疾患の平成6年から3年間は、大きく前年を下回っている。この低下は、平成7年1月施行の新しい死亡診断書（死体検案書）における注意書き「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」の影響が考えられる。

脳血管疾患は、平成7年は前年を大きく上回った。これは、死因分類の改正で、肺炎に影響を与えた疾患として脳出血を死亡原因とするようになった影響が考えられる。なお、逆に肺炎は減少している。

平成29年の「肺炎」の低下の主要因は、平成29年1月適用の死因分類による原死因選択ルールの明確化によるものと考えられる。

年齢階級別に主要死因別割合をみると、30歳代以下では自殺、40～80歳代では悪性新生物、90歳以上では心疾患の割合が最も高くなっている。（図－7）

図－7 年齢階級別にみた主要死因別割合（埼玉県）



(イ) 悪性新生物（がん）

悪性新生物による死亡数は19,475人で、死亡総数の28.8%を占めており、全死亡者のおよそ10人に3人は悪性新生物で死亡したことになる。

年齢階級別にみると、70～79歳が6,772人で最も多く、次いで80～89歳が5,946人、60～69歳が3,397人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合をみると、60～69歳が47.0%で最も多く、次いで70～79歳が40.3%、50～59歳が39.4%となっている。（表－10）

死亡率は人口10万人に対し271.4で、前年より4.0ポイント上昇した。全国は前年より1.2ポイント上昇し300.7である。埼玉県及び全国の死亡率は上昇を続けている。

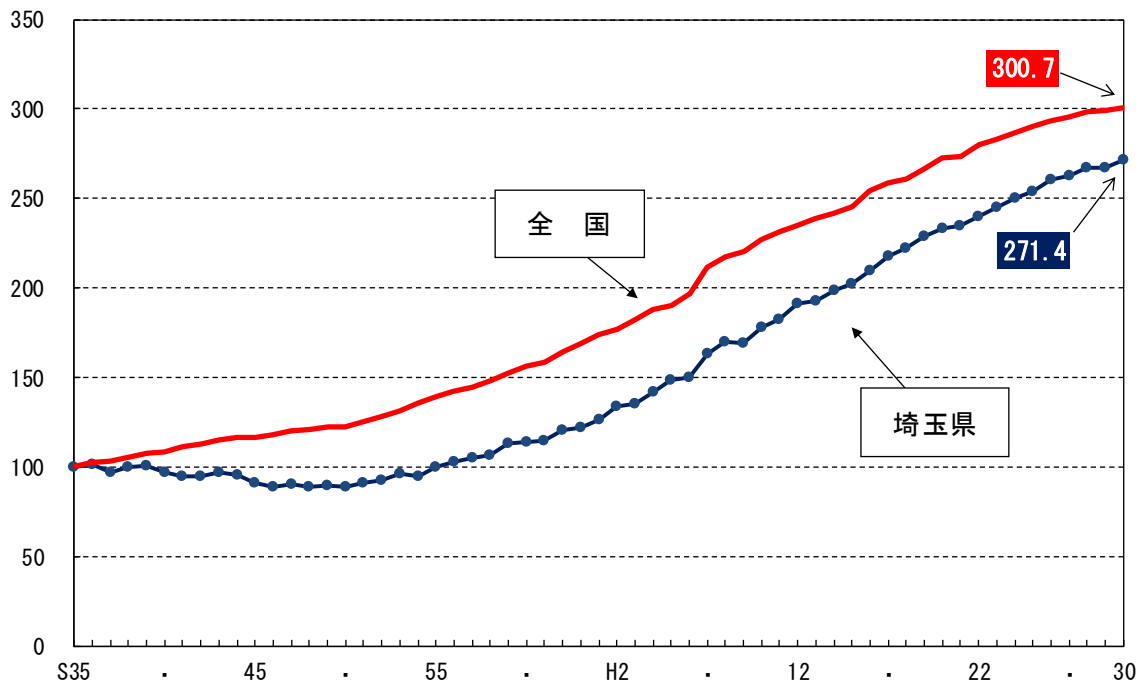
（図－8）

表－10 悪性新生物による死亡数及び割合（年齢階級別）

	総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	不詳
死亡総数	67 726	251	242	443	1 421	2 731	7 232	16 791	24 243	14 371	1
悪性新生物による死亡数	19 475	34	14	92	455	1 077	3 397	6 772	5 946	1 688	-
(各年齢階級別割合)	100.0%	0.2%	0.1%	0.5%	2.3%	5.5%	17.4%	34.8%	30.5%	8.7%	-
死亡総数に占める割合	28.8%	13.5%	5.8%	20.8%	32.0%	39.4%	47.0%	40.3%	24.5%	11.7%	-

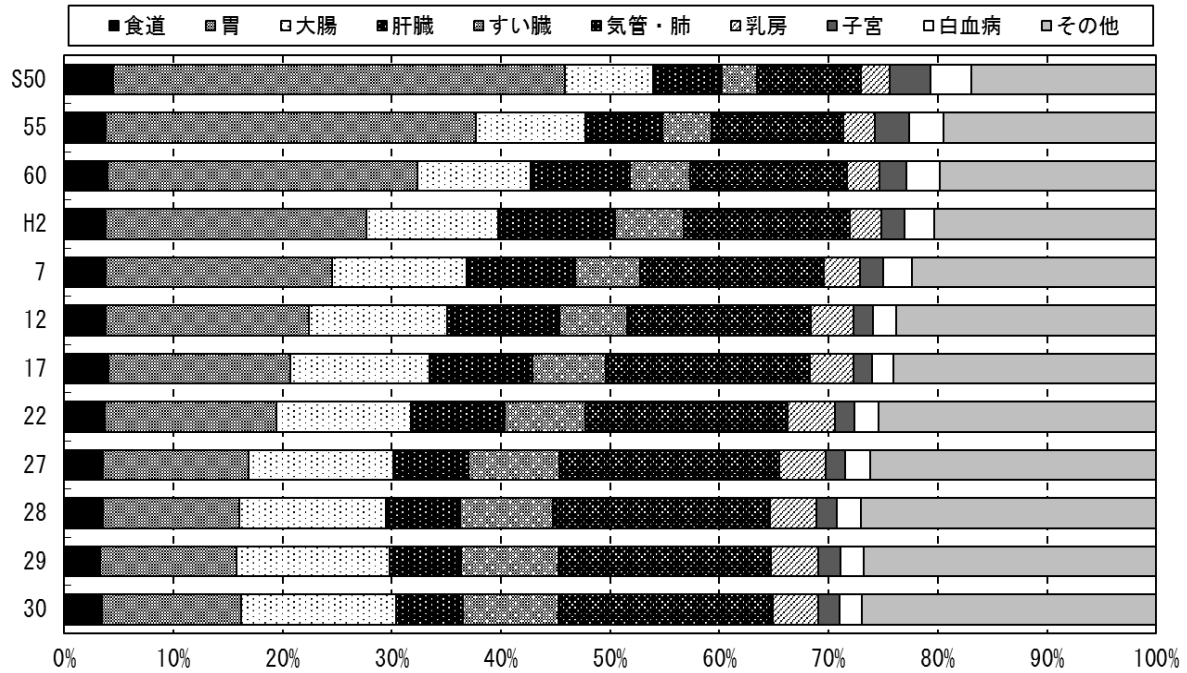
図－8 悪性新生物による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

死亡率（人口10万対）



部位別にみると、「気管・気管支及び肺」が3,821人（19.6%）で最も多く、平成14年以降第1位となっている。また、平成28年に「大腸」が初めて「胃」を上回り第2位となった。平成30年は「大腸」が2,755人（14.1%）、「胃」が2,492人（12.8%）である。（図－9、表－11）

図－9 悪性新生物の部位別死亡割合の推移（埼玉県）



表－11 悪性新生物部位別死亡数及び割合の年次推移

	埼玉県														
	S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	27	28	29	30
総数	2 426	2 914	3 508	4 265	5 404	6 665	8 518	10 942	13 163	15 190	17 058	18 823	19 148	19 181	19 475
食道	120	142	183	192	207	264	321	420	500	614	635	662	684	632	670
胃	1 272	1 393	1 535	1 763	1 830	1 891	2 036	2 268	2 450	2 534	2 677	2 520	2 384	2 394	2 492
大腸	346	542	694	1 031	1 344	1 670	1 929	2 105	2 494	2 571	2 690	2 755
（結腸）	178	290	410	664	878	1 101	1 283	1 364	1 694	1 778	1 846	1 880
（直腸）	63	106	130	168	252	284	367	466	569	646	741	800	793	844	875
肝臓	229	222	249	266	383	604	912	1 088	1 344	1 443	1 457	1 294	1 299	1 262	1 192
すい臓	42	66	106	139	240	366	532	647	825	1 019	1 269	1 567	1 624	1 702	1 705
気管・気管支及び肺	95	174	281	407	652	958	1 292	1 846	2 215	2 829	3 163	3 788	3 814	3 740	3 821
乳房	40	38	77	110	158	199	253	362	511	607	726	806	824	829	804
子宮	138	159	139	160	170	166	176	228	236	261	305	331	352	385	396
白血病	58	84	98	158	169	200	230	287	276	302	376	435	427	409	396
その他	389	530	710	724	1 053	1 323	1 735	2 452	3 136	3 652	4 345	4 926	5 169	5 138	5 244
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
食道	4.9	4.9	5.2	4.5	3.8	4.0	3.8	3.8	3.8	4.0	3.7	3.5	3.6	3.3	3.4
胃	52.4	47.8	43.8	41.3	33.9	28.4	23.9	20.7	18.6	16.7	15.7	13.4	12.5	12.5	12.8
大腸	8.1	10.0	10.4	12.1	12.3	12.7	12.7	12.3	13.2	13.4	14.0	14.1
（結腸）	4.2	5.4	6.2	7.8	8.0	8.4	8.4	8.0	9.0	9.3	9.6	9.7
（直腸）	2.6	3.6	3.7	3.9	4.7	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.1	4.4	4.5
肝臓	9.4	7.6	7.1	6.2	7.1	9.1	10.7	9.9	10.2	9.5	8.5	6.9	6.8	6.6	6.1
すい臓	1.7	2.3	3.0	3.3	4.4	5.5	6.2	5.9	6.3	6.7	7.4	8.3	8.5	8.9	8.8
気管・気管支及び肺	3.9	6.0	8.0	9.5	12.1	14.4	15.2	16.9	16.8	18.6	18.5	20.1	19.9	19.5	19.6
乳房	1.6	1.3	2.2	2.6	2.9	3.0	3.0	3.3	3.9	4.0	4.3	4.3	4.3	4.3	4.1
子宮	5.7	5.5	4.0	3.8	3.1	2.5	2.1	2.1	1.8	1.7	1.8	1.8	1.8	2.0	2.0
白血病	2.4	2.9	2.8	3.7	3.1	3.0	2.7	2.6	2.1	2.0	2.2	2.3	2.2	2.1	2.0
その他	15.2	18.2	20.2	17.0	19.5	19.8	20.4	22.4	23.8	24.0	25.5	26.2	27.0	26.8	26.9

(ウ) 心疾患

心疾患による死亡数は10,805人で、死亡総数の16.0%を占めている。

年齢階級別にみると、80～89歳が4,093人で最も多く、次いで90歳以上が2,744人、70～79歳が2,312人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、90歳以上が19.1%で最も多く、次いで80～89歳が16.9%、40～49歳及び50～59歳が15.1%の順となっている。（表－12）

死亡率（人口10万対）は平成7年1月に死亡分類及び死亡診断書の改正が行われた影響で、平成7年に一度大幅な低下を見せたものの、その後は上昇傾向にあり、平成30年は前年より3.7ポイント上昇し150.6であった。全国は前年より3.2ポイント上昇し167.6である。（図－10）

表－12 心疾患による死亡数及び割合（年齢階級別）

	総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	不詳
死亡総数	67 726	251	242	443	1 421	2 731	7 232	16 791	24 243	14 371	1
心疾患による死亡数	10 805	10	11	63	214	412	946	2 312	4 093	2 744	－
（各年齢階級別割合）	100.0%	0.1%	0.1%	0.6%	2.0%	3.8%	8.8%	21.4%	37.9%	25.4%	－
死亡総数に占める割合	16.0%	4.0%	4.5%	14.2%	15.1%	15.1%	13.1%	13.8%	16.9%	19.1%	－

図－10 心疾患による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

死亡率（人口10万対）



(エ) 肺炎

肺炎による死亡数は5,481人で、死亡総数の8.1%を占めている。

年齢階級別にみると、80～89歳が2,456人で最も多く、次いで90歳以上が1,797人、70～79歳が942人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、90歳以上が12.5%で最も多く、次いで80～89歳が10.1%、70～79歳が5.6%の順となっている。（表-13）

死亡率（人口10万対）は総じて上昇傾向にあったが、平成29年1月適用の死亡分類による原死因選択ルールの特化による影響から、平成29年に大幅に低下している。平成30年は前年より0.4ポイント上昇し76.4となった。全国は前年より1.5ポイント低下し76.2となった。（図-11）

表-13 肺炎による死亡数及び割合（年齢階級別）

	総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	不詳
死亡総数	67 726	251	242	443	1 421	2 731	7 232	16 791	24 243	14 371	1
肺炎による死亡数	5 481	-	3	3	10	54	216	942	2 456	1 797	-
（各年齢階級別割合）	100.0%	-	0.1%	0.1%	0.2%	1.0%	3.9%	17.2%	44.8%	32.8%	-
死亡総数に占める割合	8.1%	-	1.2%	0.7%	0.7%	2.0%	3.0%	5.6%	10.1%	12.5%	-

図-11 肺炎による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

死亡率（人口10万対）

